


- 1. 政策形成対話の促進: 長期的な温室効果ガス(GHG)大幅削減を事例として

Promotion of a policy-forming dialogue

- through Discussion on Long-term Substantial Reduction of GHG -

 キーワード	気候変動問題ステークホルダー・ダイアログ、不確実性下の意思決定支援システムの構築
Key Word	Climate change, Stake holder dialogue. Construction of support system for decision making under uncertainty

1. 研究開発の目的・目標

長期的な温室効果ガス(GHG)大幅削減のためには、科学に基礎をおいた政治決断・政策が重要である。その判断の妥当性を高め、社会変革を実現する鍵は、社会の構成員における議論の構築と社会的意思の形成にあると言えよう。しかし現在、社会のあり方をも変えていく気候変動問題という重大問題に対して、取組の主役である社会の構成員は責任ある議論を尽くしているのだろうか。

本研究開発プロジェクトの目的は、政策の基盤となる知見や技術を生み出す「科学」と行動の中心となる「社会」の両者が知を共有し、未来を見据えた責任ある応答が可能な「対話の場」の創出と、その社会実装に向けた調査研究をすることにある。

主目標

科学者/専門家と社会の構成員(ステークホルダー)の参加の下、GHG 大幅削減長期シナリオを素材に、科学者/専門家とステークホルダー間、またステークホルダー内において熟慮・応答することを通じて、社会的意思の形成の可能性を模索する。内外の焦眉の政治的課題である気候変動問題をテーマに据え、リアリティのある議論の展開と結論(社会における意見構造の明確化)を導き出すプロセスを試行・開発する。

長期 GHG 大幅削減に向けて継続実施すべき科学と社会との対話を可能とし、社会的意思の形成に資する場及びそのツール(仲介機能)を提案する。

副次目標

長期 GHG 削減シナリオを通じた複数領域の科学者の協働(知の結集の可能性の検証)。

科学と社会の間、及び社会の間での意味ある対話の実施を可能とする参加型手法の応用・開発。

World Wide Views プロジェクトとの連携。

2. 研究開発概要

(1) 実施構造

本研究開発プロジェクトは、2008年10月～2012年3月の3年半に及ぶ。

2008年度はキックオフとして、以下に挙げる6つの研究開発項目に取り組んだ。未来工学研究所の研究チームは、主に項目2及び3の実施に寄与している。

項目1) 研究開発体制整備

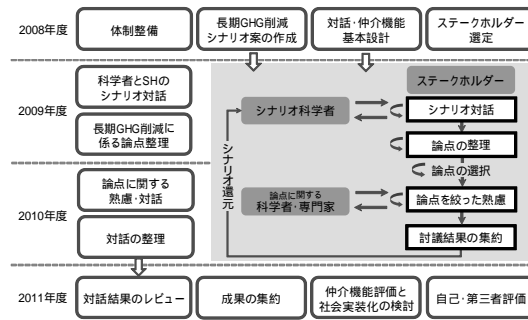
項目2) 科学と社会間、及び社会間での対話・応答の試行に向けた、対話手法及び仲介機能の設計

項目3) 対話・応答の「場」に参加するステークホルダーの選定

項目4) 長期 GHG 削減シナリオ(対話素材)の協働検討

項目5) World Wide Views への対応

項目6) 研究開発の広報・アウトリーチのためのウェブサイトの開設



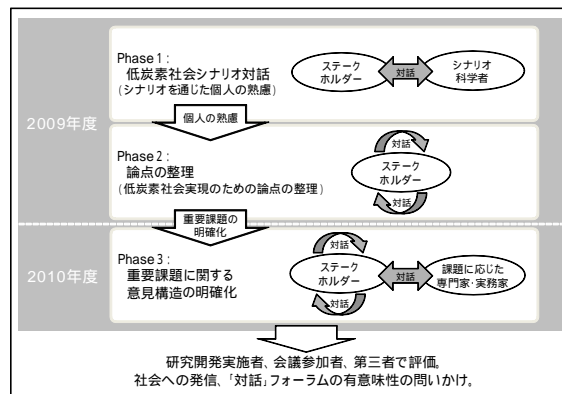
研究開発プロジェクトの実施概要

(2) 実施内容と主な成果

- 科学と社会(ステークホルダー)の間、及び社会(ステークホルダー)の間での対話・応答の「場」の試行に向けた、対話手法及び仲介機能の設計

科学と社会(ステークホルダー)の間、及び社会(ステークホルダー)の間での対話・応答の「場」の試行は、2009年度及び2010年度の約2年間にわたって実施することとなった。

本プロジェクトではこれを「低炭素社会づくり『対話』フォーラム」と名づけ、フォーラムを3つのフェーズから構成することや、各フェーズのねらい、開催時期等、基本方針の検討を行った。



低炭素社会づくり「対話」フォーラムの基本構成

対話手法及び仲介機能の検討に関しては、政策形成に資する“場”及び“機能”としての対話の意味、ステークホルダーを参加者とする対話の場の意義、気候変動問題の特性との関わりや影響、公開(アカウントビリティ)のあり方、研究の一環として試行する対話フォーラムにおける意味ある対話の実現可能性と課題等、多様なテーマについて学際的な議論を重ねており、平成21年度以降も継続発展させて検討を行っていくところである。